



大里農林振興 センターだより

発行 埼玉県大里農林振興センター
 熊谷市久保島1373-1（管理部）☎ 048-523-2812(代表)
 （農業支援部）☎ 048-526-2210(直通)
 深谷市上野台244-2（農村整備部）☎ 048-571-2241(代表)
<http://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/b0906>

第11号（年2回発行）

「コバトン」



各種農業賞等「受賞おめでとうございます！」

1 令和2年度全国優良経営体表彰で農林水産大臣賞を受賞！

（熊谷市 TATA GREEN株式会社）

熊谷市江南地区で、さつまいもの生産～加工～販売の一貫経営をしているTATA GREEN株式会社（代表取締役 坂井孝行氏）は、令和2年度全国優良経営体表彰の販売革新部門で栄える農林水産大臣賞を受賞されました。

坂井さんは、「カッコイイ農業」を実践することで、若者が農業を職業として選ぶモデルに自身ができることを目指し、平成24年に就農しました。就農と同時に会社を設立、自社店舗「芋屋TATA」をオープンさせ、栽培面積・加工量を拡大するとともに、SNSを活用した斬新な販売戦略により若者の心を掴み、売上も伸ばしています。今後は就農する人の支援をするほか、海外を視野に入れた活動も考えています。



賞状を手にするTATA GREEN(株)
代表取締役 坂井孝行氏

2 第37回さいたま花の祭典品評会で農林水産大臣賞を受賞！

（深谷市 門倉喜与子さん）

令和2年11月13～15日に八木橋百貨店（熊谷市）で開催された第37回さいたま花の祭典品評会にて、深谷市のゆり農家 門倉喜与子さんのLAユリ「ヒノー」が農林水産大臣賞を受賞されました。

この品評会は県産花植木産業の振興を図るために開催されており、県下最大の花のイベントとなっています。

門倉さんは夫の誠二さんと「丈夫で、どこから見てもきれいなユリ」を目指し、丁寧な栽培を心掛けています。

今後は、令和3年度の第60回農林水産祭参加表彰行事農林水産大臣賞選賞審査に出品されます。



農林水産大臣賞を受賞した門倉さんのLAユリ「ヒノー」

CONTENTS < 目次 >

表紙 各種農業賞等「受賞おめでとうございます！」

2P 備前渠用水路が世界かんがい施設遺産に登録！

～ 400年の歴史を持ち当時の面影を残す県内で最古級の農業用水路 ～

3P 令和3年は飼料用米に取り組んでみませんか？

3P 浦和競馬場にて「農業王国ふかや」シリーズが開催されました！

3P 埼玉県農業大学校に求人票を出してみませんか？

4P 稼いで廻すナナイロプロジェクト

4P 熊谷市で発生するスクミリンゴガイについて

5P 良食味生産を目指した「彩のきずな」の栽培方法

6P サトイモ疫病にご注意ください！ ～持ち込まない対策を～

7P 農業経営よろず相談 お待ちしています！

～ 農業経営相談所 大里農林振興センターサテライト窓口～

8P 令和2年度に完了する県営事業地区の紹介

～ かんがい排水事業「明戸北部地区」～

備前渠用水路が世界かんがい施設遺産に登録！

～ 400年の歴史を持ち当時の面影を残す県内で最古級の農業用水路 ～

1 はじめに

令和2年12月8日（火）に開催された「国際かんがい排水委員会（ICID）」国際執行理事会において、備前渠用水路土地改良区が申請した「備前渠用水路」が「世界かんがい施設遺産」として登録されました。

昨年までに世界で91施設、国内39施設が登録されており、県内では見沼代用水に次いで2例目です。

2 世界かんがい施設遺産とは

かんがいの歴史・発展を明らかにし、理解醸成を図るとともに、かんがい施設の適切な保全に資するために、歴史的なかんがい施設を国際かんがい排水委員会（ICID）が認定・登録する制度であり、平成26年に創設されました。

3 備前渠用水路の概要

- (1) 施設所在地：本庄市、深谷市、熊谷市
- (2) 供用開始：1604年
- (3) 施設の特徴

●利根川から取水し、17世紀初頭から現在まで、埼玉県北部の利根川右岸に位置する約1,400ヘクタールを超える広大な農地に用水を供給する幹線延長約23kmの用水路。

●用水路のなかった利根川右岸一帯の農業発展及び食料増産を目的とし、幕府の命を受けた代官頭伊奈備前守忠次により1年間という短期間で築造されたもの。

●素掘水路のまま利用されている区間が多く、豊かな自然環境が保全されている。

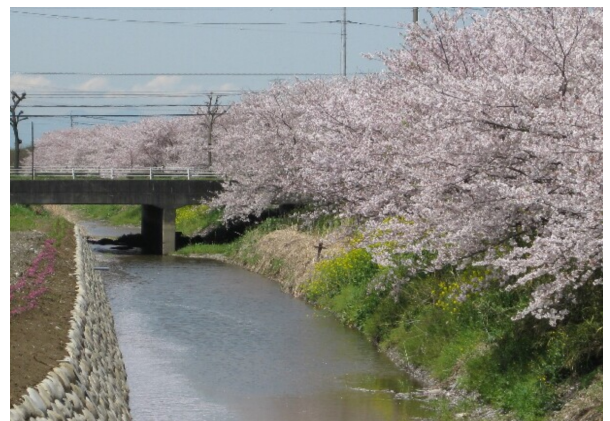
●一部区間では水路沿いにコスモスや桜などが植えられ、自然石を用いた親水護岸が整備されている。



素掘水路沿いに広がる農地（本庄市仁手地内）



生物が棲みやすい素掘水路（深谷市江原地内）



桜並木と親水護岸（熊谷市弥藤吾地内）

令和3年は飼料用米に取り組んでみませんか？

主食用米の国内需要は毎年10万トン程度減少しています。また、新型コロナウイルスの影響により、業務用を中心に全体の販売が不調となっています。このままでは、令和3年産米価は大幅に下落することが懸念されます。

経営リスクを分散させるため、飼料用米への転換に取り組んでみませんか。

【お問い合わせ】地域支援担当 ☎048-523-2812

飼料用米に取り組むメリット

- 田植えから収穫まで通常の稲作体系で取り組めること（主食用品種でも栽培可能）
- 国の「水田活用の直接支払交付金」の対象となるため、確実な収入が見込めること

水田活用の直接支払交付金

- (1) 戦略作物助成 ※いずれか一方を選択します
- ・区分管理：収量に応じて5.5万円～10.5万円/10a
（主食用米と飼料用米のほ場を区別して生産し、当該ほ場の飼料用米を出荷）
 - ・一括管理：8万円/10a
（主食用米と飼料用米のほ場を区別せず生産し契約数量を出荷）
- (2) 産地交付金
- ・認定農業者、集落営農、認定新規就農者の場合：3千円/10a
 - ・需要者と複数年契約（3年以上）をした場合：1.2万円/10a
- ※上記は令和2年度の助成内容です。
令和3年度については国の予算措置より内容が変更となる場合があります。詳しくは3年度の制度の概要をご確認ください。

浦和競馬場にて「農業王国ふかや」シリーズが開催されました！

令和3年1月6日（水）、7日（木）、8日（金）の3日間に浦和競馬場にて深谷市の協賛レースが開催されました。

3日間で計6レースに「『深谷ねぎ』賞」や「花のまち『ふかや』賞」など深谷市にちなんだレース名を付け、競馬ファンにPRを行い、レースの勝利馬主には副賞として深谷市特産のねぎ束やゆりの花束を贈呈しました。

新型コロナウイルス感染症対策のため、無観客での開催となりましたが、ライブ中継などを通して多くの方々に深谷市をPRすることができたと思います。



埼玉県農業大学校に求人票を出してみませんか？

埼玉県農業大学校には、2年課程に露地栽培、施設栽培、水田複合、花き、植木造園、酪農の各専攻が、1年課程には短期野菜、有機農業の各専攻があり、農作業実習を中心に実践的な学習を行っています。

令和元年度73人の卒業生のうち23人が農業法人等に就職就農するなど、例年多くの学生が農業部門への就職就農を希望しています。

農業大学校は「無料職業紹介事業」に取り組ん

でおり、学生向けに求人票を出すことができます。くわしくは農業大学校のホームページをご覧ください。

☞ホームページには「企業の皆様へ」とありますが、法人でなくても求人を行うことができます

《農業大学校求人関連のHP》
<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0921/kyuujinn/kigyo.html>



稼いで廻すナナイロプロジェクト

1 遊休農地の有効活用

熊谷市ナナイロプロジェクトでは「令和2年度 地方創生に向けて“がんばる地域”応援事業」を活用して「稼いで廻す菜の花再耕事業」に取り組みました。

小原地区や下川上地区の8haの遊休農地等にナタネを播種し、大豆用コンバインで収穫しました。収穫されたナタネは化学薬品を使用せずに昔ながらの製法で搾油する市内の米澤製油(株)に搾油を依頼しました。



開発された商品
左から
家族向け450g瓶、
少人数向け180g瓶、
業務向け1400g缶

2 商品戦略作戦会議

このプロジェクトではただ作って売るだけでなく、何を、誰に、どのように、どうして売りたいのか、どんなメッセージを届けたいのかをメンバーで7回にわたって協議してターゲットに合わせた商品を開発しました。

3 ネットやSNSを使った口コミでPR

ツイッター等のSNSに使用後の感想を写真付きで投稿できる人限定で試食モニターを公募しました。個人80名、飲食店30店に依頼し、130件以上投稿され、さらに多くの人にリツイートされ拡散されています。また、ニュースサイト等に記事を配信する会社も利用し、ネット上でより多くの人目に触れる手法も活用しました。この結果、販売も順調に推移しており、地域の特産品として定着が期待されています。

【お問い合わせ】

農業支援部 技術普及担当 ☎048-526-2210

熊谷市で発生するスクミリンゴガイについて

熊谷市では一部の地域でスクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）による水稲への食害が発生しています。今年度は特に発生が目立ち、生息域の拡大も確認されました。被害や生息域の拡大を防止するため、対策を実施しましょう。

1 特徴と生態

スクミリンゴガイは南米原産の外来種です。繁殖力が非常に強く、夏に特徴的なピンク色の卵塊を畦畔や水路の壁等に産み付けます。冬季は土壤中で冬眠しており、近年は暖冬により越冬生存率が上昇していると考えられています。



産み付けられた卵塊



被害を受けた水稲ほ場

2 防除・対策

最も効果的な対策は薬剤での防除です。しかし薬剤防除だけでは効果が不十分なため、体系的な防除が必要となります。

水稲作付時の対策	冬季の対策
<ul style="list-style-type: none"> ・ 健苗の育成 ・ 網の設置（水口） ・ 浅水管理 ・ 薬剤防除 ・ 殺卵、捕獲 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ほ場の均平化 ・ 耕うん（貝の破碎） ・ 用排水路の堀さらい

防除技術の詳細については下記までお問い合わせください。

【お問い合わせ】

農業支援部 技術普及担当 ☎048-526-2210

《病害虫防除所ホームページ》

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/info20201222fu.html>



良食味生産を目指した「彩のきずな」の栽培方法

1 良食味米生産の取り組み

埼玉県では高温に強い良食味品種「彩のきずな」で「米の食味ランキング」において最高評価の「特A」を獲得し、ブランド品種として育成することを目指しています。

当センターでは大里地域に合わせた栽培指針の実証を5年間行い、一定の成果が得られましたので、栽培のポイントについてご紹介します。

2 「彩のきずな」良食味生産のポイント

●良食味米が備える条件

- ①粒厚が厚い
- ②整粒歩合が高い
- ③胴割米が少ない
- ④たんぱく質含量が低い

この条件を満たすように気象と品種特性に応じて栽培管理方法を変えることが必要です。なお、食味重視のため、慣行栽培より収量が減少することがあります。

（1）必要な穂数を確保し、籾の充実度をアップ

田植え後、分けつ発生を促し早期に有効茎を確保します。遅発茎をなるべく発生させないため、高温年は深水、低温年は浅水管理を行います。遅発茎は出穂が遅れることから、籾の充実が不足し、薄い米やしいなになりがちです。

●有効茎数の目安

坪50株植えの場合：株あたり約30本
坪60株植えの場合：株あたり約25本

（2）根を健全に保ち、良好な登熟を維持

根の活性を低下させない水管理が重要です。有効茎数を確保した後は、中干しにより酸素を供給し、健全な根の発達を促します。中干しは無効分けつの発生を抑制する効果もあるため、必ず行いましょう。田面に大きなひびが入ると根が切れダメージとなり、養分吸収を阻害するので、小ひびが入る程度とします。

出穂期に深水で管理した後は、間断かん水を行います。

落水は収穫の10日前頃とします。早期落水

は粒厚、整粒歩合が低下しやすいので避けます。

（3）基肥はやや減らし、穂肥は慣行より遅く

多肥栽培は過繁茂となった後、生育が凋落するパターンとなり、粒厚や整粒歩合が低下しやすいので避けます。彩のきずなは施肥反応がよい品種なので、基肥は慣行栽培よりもやや控え、窒素成分4～5kg/10aとします。

穂肥は1穂数数の増加を抑え、粒厚を厚くするために、通常より遅めの出穂前20～15日頃（幼穂長2～15mm程度）に窒素成分で2～1.5kg/10aを施用します。

出穂期は気温により変動しやすいのでこまめに幼穂長を測定し、施用時期が遅れないようにしましょう。過剰施肥はたんぱく質含量が増加し食味の低下につながるため絶対に避けます。

（4）収穫は適期に達したらすぐに

県産米は高温期に登熟するため香りが弱いことが最大の欠点とされています。

収穫適期内の早めの収穫で香りが残りやすくなり食味の向上が期待できます。

●普通栽培の収穫適期の目安

	出穂後日数	帯緑籾割合	積算気温
慣行	38～48日頃	50～10%	900～1200℃
良食味	38～43日頃	40～30%	900～1000℃

（5）丁寧な乾燥作業で食味低下を防止

乾燥機による急激な乾燥は胴割米発生の原因となります。胴割米の混入は食感が低下し食味の低下を招きます。また、過乾燥や高水分籾の高温乾燥も食味を低下させます。張込後12～24時間程度通風し籾水分を均してから乾燥させます。張込量が少ないと循環速度が早まり、胴割れが起こりやすくなるので適正量を遵守します。火力乾燥はできるだけゆっくり行い、調製後の玄米は必ず冷暗所に保管しましょう。

【お問い合わせ】

農業支援部 技術普及担当

☎048-526-2210



埼玉県マスコット「コバトン」

サトイモ疫病にご注意ください！～持ち込まない対策を～

1 サトイモ疫病とは

平成26年頃から、九州・四国地方を中心に激しい発生が確認されているサトイモに感染する病気です。

令和元年度から、埼玉県南西部でも発生が確認されています。当センター管内ではまだ発生していませんが、「疫病」という名のとおり感染力が非常に強く地域一体に広がるほか、収量にも大きな影響を与えることから、警戒が必要です。

2 サトイモ疫病の特徴

発病は25℃程度が好適と考えられていますが、既に発生した県の結果からは、気温が25℃よりやや低く、雨を伴う日に広く発生しています。6月下旬から7月初旬が初発の時期にあたります。葉の病斑では、遊走子のうが多数形成されたところが白く見えます。最初少ない病斑が徐々に増加し、1つの病斑が拡大したり、繋がったりして、葉の大部分を占めるようになります。茎では、発病部位から折れて葉が失われたり、発病部位が軟化し内部組織が突出したりします。早期に発生した場合、葉を失うことによる光合成への影響が大きく収量減に繋がります。



葉柄の疫病斑



葉の疫病斑

3 対策としてやるべきこと

大里地域は未発生であることから、まず「持ち込まない・発生しない」ようにする対策を重視してください。疫病と疑わしい病斑がみられたら、当センターにご連絡ください。

（1）発生源の対策

①残さの適正な処分

疫病菌は前年の残さや野良生えの芋とともに越冬します。そのため、種取り用の畑や捨て場に芋が残っている場合は、ロータリーを複数回かけて残さを破碎したり、除草剤をかけたりして分解してください。芋を同じ畑で連作しなく

ても、数百メートルは菌がすぐ拡散するため、疫病発生適温前の5月までに必ずほ場内の残さを分解してください。

②種芋の消毒

疫病菌は芋と芋表面の土からも検出されます。そのため、疫病菌を持ち込まないように種芋の消毒をしてください。市販の種芋を購入した場合も、特に注意が必要です。

土が芋表面に付着していると、種子消毒液が芋本体に届かないことがあるため、まずケミクロンGの5万倍液を使用して土を良く洗い落とします。そして、水に浮いてしまう芋は病害等により腐敗している可能性があるため捨てます。

洗浄後に種芋消毒を行います。鹿児島県の試験では、ベンレート水和剤20を用いて種芋浸漬または粉衣するのが良いとされています。

（2）まん延させない対策

①散布通路の確保

薬剤は発病部位に付着しなければ防除効果はありませんが、サトイモはその草姿から、薬剤が付着しづらいものです。疫病菌は下位葉から発生しやすく、また茎にも発生します。薬剤散布をしやすくするために、散布用の通路を確保して植付けましょう。通路は10m以内の間隔を確保してください。

②排水対策の実施

高湿度で発生しやすいため、明渠などを掘り、排水路をしっかりと確保します。雑草対策を行い、ほ場の湿度を抑えることも効果があります。

（3）薬剤散布

発生前からペンコゼブ水和剤またはジーファイン水和剤を定期的に散布することで予防できます。初発時は直ちにダイナモ顆粒水和剤またはアミスター20フロアブルを散布します。サトイモは撥水性が強いいため、必ず展着剤を使用し、農薬が植物体にしっかりと付着するようにしてください。

【お問い合わせ】

農業支援部 技術普及担当 ☎048-526-2210

農業経営よろず相談 お待ちしています！

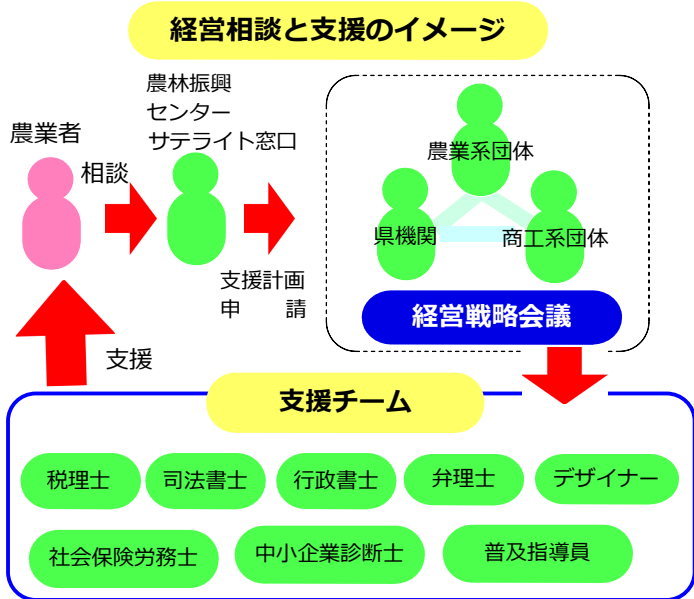
～農業経営相談所 大里農林振興センターサテライト窓口～

1 経営相談所とは？

埼玉県では、担い手の育成と活力ある地域農業の維持発展のため、農業経営の発展を目指す意欲ある農家に対して、「農業経営相談所」として農林振興センターが窓口となり、管内の農業者の相談を直接受けています。

2 相談の進め方は？

農業者皆さんの相談を受けると農林振興センターは相談内容から経営課題を確認し、「経営相談所の経営戦略会議」で有識者からアドバイスを受けて効果的な支援計画を作成します。その後、経営課題の解決に向けて必要な税理士や社会保険労務士、中小企業診断士、デザイナーなどの専門家とチームを組んだ伴奏支援を行います。以下がイメージです。



3 どんな相談が受けられるの？

今までいろいろな相談が寄せられています。

- ・規模拡大に向け雇用を入れたい！
- ・子供へ事業の継承を準備したい！
- ・だれかに経営を譲りたい！
- ・経営を法人化したい！
- ・設備導入に向け、適正な投資・資金調達をしたい！
- ・商標等の知的財産を守りたい！
- ・開発した加工品をブランド化したい！
- ・中長期の将来計画を立てたい！

・SNSやホームページを活用し商品PRをしたい！などの相談がありました。

4 相談した事例は？

＜深谷市 JAPAN AGRI DESIGN (株)
原田幸一郎さん＞



原田幸一郎さん

原田幸一郎さんは、平成17年に熊本県から上京しIT企業へ就職、農業を職業とすることを決め、22年に県内の法人、出荷組織での研修を経て25年に何も無い状態から中古の機械を整備、施設を借り受けるなどにより徐々に経営基盤を整備してきました。

現在、施設きゅうり30a、ねぎ50a、ブロッコリー200a、他露地野菜20aの規模まで拡大しています。

原田さんの相談は今後の経営展開を考えるべく、経営の法人化により規模拡大を見据えた経営計画を実現することでした。そこで、経営相談所による専門家相談を実施してきました。計画では労働力を海外実習生に求め準備していました。しかし、コロナ禍で入国ができず法人化は延期を余儀なくされましたが、将来経営パートナーとなる人材を求めて雇用募集を図る計画に見直し、今回法人化の再トライが進められました。

現在、資金活用により野菜調整施設を新設しており、新たなステップが始まっています。

お気軽に御相談下さい！
【お問合わせ】 農業支援部
新規就農・法人化担当
☎048-526-2210



埼玉県マスコット
「さいたまっち」

令和2年度に完了する県営事業地区の紹介

～かんがい排水事業「明戸北部地区」～

明戸北部地区は、深谷市北部に位置し、一級河川小山川と備前渠用水路に挟まれた畑地帯です。

ねぎを主要作物とする野菜地帯が広がっていますが、ほ場の区画が未整備で排水路等の排水施設が整備されていないことから、大雨時に小山川の水位が上昇し、一帯が排水不良となり、湛水被害が発生し、営農に支障をきたしていました。

このようなことから、排水不良の解消を目的とした排水機場及び幹線排水路を整備することとしました。

また、排水機場東側の野菜地帯についても、ほ場整備事業「明戸北部1期地区」を本事業と一体となって実施し、ほ場の区画整理及び排水路を整備することで、排水不良の解消を図り、安定、高品質の作物が供給ができるよう、生産基盤の確立を目指し、事業を進めています。

排水機場の整備は平成29年度から着手し、排水ポンプの製作据付や、建屋の築造、小山川へ排水するための樋管の更新等を実施し、令和元年度工事までに排水機場の主な施設が完成しました。

主要施設の整備が完了し、排水機場の稼働が可能となったことから、令和2年6月から供用を開始しました。現在は管理者である深谷市により、大雨時に地区全体を効率よく排水できるように体制が整えられています。

また、排水機場に係る付帯施設の工事を令和2年度に実施しており、これにより必要な整備が完了します。

【地区概要概要】

受益面積：104.4ha
(水田：6.0ha 畑：98.4ha)

総事業費：1,022,000千円

事業期間：平成26年度～令和2年度

事業量：排水機場1箇所
(排水ポンプφ1000×2台)、幹線排水路0.5km



「明戸北部地区」位置図



明戸北部排水機場（全景）



排水ポンプ φ1000×2台